
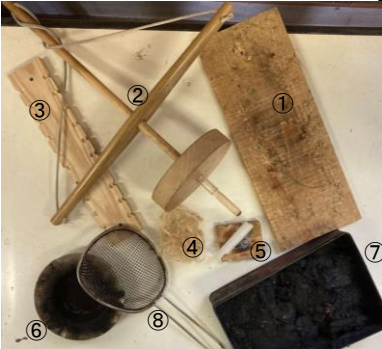



No.	114	<h1>火起こし</h1>			
概要	○マイギリ式発火法により、グループで協力して火を起こす。				
内容	人数(人)	~40人	時間	1~1.5時間	
	対象	小4以上	時期	通年	
	場所	屋外創作棟、玄関横			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ <b>職員による直接指導</b>			
	安全管理	引率者と担当職員による監視			
ねらい	○ 先人の知恵に学び、生きるための工夫に気づく。 ○ グループで協力して作業を進めることにより、連帯感を深める。				
準備	施設から貸出	火きり杵、火きり臼、土台板、火口(ほくち)、麻紐、灰皿、金網、ろうそく、ろうそく台、ランタン			
	団体で準備	活動しやすい服、帽子、軍手 ※ 夏期は タオル、水筒			
	確認事項	○ 起こした火をランタンに移して保管することで、その後の活動(炊飯活動やファイヤー(キャンドル)の集いで利用することもできる。 ○ ファイヤースターターを使っでの火起こし体験活動も可能である。(事前に要相談)			

	内 容	留意事項
活動前	○実施までに事務室で打ち合わせを行う。 (ねらいの確認、人数や班の数、集合場所や集合時刻の確認)	
活動の説明	<職員による説明> ○めあてや活動の進め方の説明を聞く。 ○マイギリ式の発火法についての説明を聞く。 ※火きり杵の回転を止めずに交代する方法を知る。 ○注意事項についての説明を聞く。	・軍手をはめて活動をする。 ・火傷には十分注意する。
展 開	○グループ(4~6人)ごとに道具の準備をする。 ○マイギリ式発火法で火種を作る。 ・火きり杵を火きり臼の穴に合わせ、回転させて起こる摩擦により火種をつくる。 ・灰皿に入れた火口の上に、火きり杵から火種を採る。 ○火種を炎にする。 ・やさしく息を吹きかけ、火口に火種を広げる。煙が出はじめたら、細くばらした麻紐を適量火種の上のせ、息で飛ばないように金網をかぶせ、横から細く長く息を吹きかける。炎がついたら金網をすぐに外し、火をろうそくに移す。ろうそくから細竹を使ってランタンに火を移し、保管する。 ・時間がある限り、交代しながら火起こしをする。 ○片付けと清掃をする。	○活動は役割分担をすることで協力を意識できるようにする。 ○火起こし器の先(火きり杵)は根元まで使うと抜けなくなるので、様子を見て2cmくらいになったら交換する。 ○グループの中で交代しながら活動し、全員が火起こしを体験する。 ・特に火種を広げるとき、炎を起こすときは、火床が飛び散る可能性があるので十分注意する。 ・引率者は安全に十分注意する。

**火起こし道具一式**



火口(ほくち)  
がまの穂をほぐして炭にしたもの



①火きり臼  
②火きり杵  
③土台板  
④麻紐  
⑤ろうそく、ろうそく台  
⑥灰皿  
⑦火口(ほくち)  
⑧金網